

J A グループ宮城 災害復興ニュース (総合版)

第 8 6 号

【平成 28 年 3 月 2 日 (水) 発行】
発行：J A グループ宮城災害復興本部
編集：J A 宮城中央会
〒980-0011 仙台市青葉区
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F
電話番号：022-264-8207
FAX 番号：022-216-4466
E-mail：jataisaku@gmail.com

《目次》

1. J A 全中の奥野会長が J A 南三陸、J A 仙台管内の被災地を視察
2. 復興支援に感謝の思い伝える。42 年ぶりに仙台で「全国家の光大会」
3. セラー、バイヤーとも過去最多の団体が参加し、東北復興商談会
4. イチゴなど宮城県産のおいしさ P R。東京で「みやぎの農業復興応援フェア」
5. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第 54 次請求

1. J A 全中の奥野会長が J A 南三陸、J A 仙台管内の被災地を視察

J A 全中の奥野長衛会長が 2 月 22 日、宮城県を訪れ、J A 宮城中央会の石川壽一会長らの案内で、東日本大震災の被災地、J A 南三陸と J A 仙台の管内を視察しました。

J A 南三陸管内では、震災後に、新たに小松菜栽培を始めた南三陸町戸倉地区の若手農家を視察しました。J A 本店での意見交換で高橋正組合長は「他県 J A から職員を派遣してもらい、職員に勇気を与えてもらった」と感謝しました。



周年栽培している小松菜のハウスを視察する奥野会長㊟（南三陸町で）

J A 仙台管内では、農産物直売所たなばたけ高砂店と、震災後に発足した農事組合法人「井戸生産組合」を訪れました。J A 仙台の菅野育男組合長は、「地域農業の担い手確保、法人化への取り組みに力を入れていきたい」と語りました。

奥野会長は「震災から 5 年になるが、完全に復興したわけではない、ということを実感した」と語りました。奥野会長は 23、24 日には福島県と岩手県も視察しました。

2. 復興支援に感謝の思い伝える。42 年ぶりに仙台で「全国家の光大会」

第 58 回全国家の光大会が 2 月 10 日、42 年ぶりに仙台市で開かれ、全国から J A 役員・女性部員など約 2 1 0 0 人が参集しました。来賓祝辞を述べた J A 宮城中央会の石川壽一会長は「全国の皆様からいただいた物心両面の支援が、絶望の淵から立ち上がる勇気となり、復旧・復興に

大きな役割を果たしました」と、JAグループの「絆」に改めて感謝しました。

また、宮城県内のJA女性部は、復興支援に感謝の思いを込めて、『家の光』の記事を活用して折鶴を作成。岩沼市玉浦地区の被災田に作付けした菜の花から採取した菜の花から採取した蜂蜜を使った餡を入れ、



「きずなの力」音頭を披露したJA栗っこの女性部員

「お福分け鶴」として参加者に配りました。

大会では、山田雅人さんが、被災3県を取材して感じた思いを、かたりの世界「つながり」と題して披露。エンディングでは、JA栗っこ女性部が「きずなの力」音頭を踊り、感謝の思いを伝えました。また、JA加美よつばは平成27年度家の光文化賞促進賞を受賞しました。

会場では、県内JAなどがブースを出し、それぞれの6次化商品などを販売、お土産として人気を集めました。

なお、前日の東日本地区大会では、普及・文化活動でJA加美よつば色麻支店長の畑中けい子さんが、記事活用でJAみやぎ仙南女性部の加茂ひろ子さんが、それぞれ体験発表しました。

3. セラー、バイヤーとも過去最多の団体が参加し、東北復興商談会

農林中央金庫と東北6県のJAグループは2月23日、仙台市内のホテルで東北復興商談会を開きました。震災後、毎年開催し、今年で5回目。東北各県のJAや漁協、農業法人などセラー約60団体が出展。流通・小売業、ホテルなど



さまざまな農産物や加工品が並んだ展示・試食ゾーン

のバイヤーは約80団体が参加し、セラー、バイヤーとも過去最多となりました。

宮城県のJAは、既存の6次産業化商品などに加えて、JAあさひなは、開発中の「ブルーベリーかりんとう」、JA加美よつばは販売を開始したばかりの「トマトと玉ねぎのソース」なども試食で提供し、新商品を広くPRしました。

また、仙台市の農事組合法人2社も出展。井戸生産組合は出荷期を迎えたネギを、六郷南部実践組合はサニーレタスやちぢみ雪菜を展示しました。

農林中金の宮園雅敬副理事長は挨拶で「震災から5年。失われた販路の拡大が課題になっている。復興の形は地域によって多様であり、多面的で息の長い支援を続けていきたい」と語りました。

4. イチゴなど宮城県産のおいしさPR。東京で「みやぎの農業復興応援フェア」。

JA宮城中央会は2月16、17日の2日間、東京・大手町のJAビルにある農業・農村ギャラリーで「みやぎの農業復興応援フェア」を開きました。東日本大震災で被災した沿岸5JAなどの農産物をメインに販売し、宮城県産のおいしさと復興をアピールしました。

復興のシンボルとなったJAみやぎ亘理のイチゴ「もういっこ」や、今年度から出荷が始まったJA南三陸の大玉トマト、JA名取岩沼のセリ、JA仙台の「曲がりねぎ」などを並べ、産地を紹介しながら販売しました。旬のちぢみ雪菜やセリなどはおひたしとして試食も提供。レシピを紹介しながら、おいしさをPRしました。



「もういっこ」などは試食・販売で人気を集めました

5. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第54次請求

JAグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は2月29日、第54次請求として東電に9,705万円を請求しました。

内訳は、牧草の利用自粛等にかかわる損害が4,404万円、牧草地の除染にかかわる損害が3,994万円、風評被害に伴う肉牛の損害が1,282万円など。

2月23日現在、同協議会の請求総額は319億1,498万円、受領総額は299億2,533万円で、請求対比93.8%となっています。

以上